

# 令和6年度 若狭高等学校 学校関係者評価書

- (問) ・学校評価書の成果と課題が適切かどうか。  
・成果と課題を踏まえた今後の改善策・向上策が適切か。  
・スクールポリシーを反映したスクールプランとその評価になっているか。  
・その他、気づいた点はないか。

(意見を聞いた方)

○令和6年度PTA会長、 ●若狭高等学校 元教頭

(意見欄)

○教育課程・学習支援

個別面談を通して生徒の生活や学習状況を把握することで、生徒一人ひとりのペースや状況に合わせた支援が行われることで、増加傾向にある「家庭学習に取り組みにくい生徒」に今後改善がみられることを期待します。また、年度当初の学習ガイダンスや教員の熱心な指導を通して、生徒が主体性を持って学習し、小さな達成感を得る体験等を通して学習の楽しさや理解を今まで以上に高めることに繋がっている。

○地域住民との連携

PTA役員以外にも、生徒たちの素晴らしい活動や考えに触れる機会を増やし、家以外で見る子どもの成長を見て、実感できる機会に本当はもっと保護者には参加して欲しいと思います。いつも、思っていますが、子どもと接するのは長い人生の中でたったの数年と。また、地域住民との連携を考えると、海洋科学科の探究会議、学校祭のパレード、SSH発表会など地域住民と交流する場は大変良い活動で、開かれた学校づくりが行われている。

○図書整備

なんでもインターネットで調べられる時代に、図書情報センターの利用を維持するため、苦勞をされていると思いますが、学びをサポートする重要な基盤となっていると思いますので、引き続き蔵書数や内容を充実させて頂きたい。

○生徒のキャリアサポート

「自分の動詞」を見つける支援により、早い段階で進路を明確にできる生徒、なかなか自分の動詞を見つけられない生徒など、千差万別と思う。その中で、一つの指標として、ビックデータ等の数値に基づいた指導も、生徒の特性・動詞を見つける術として、今まで以上に活用できると良いと思う。また、適職診断など自分を外から見る機会もあると、より「自分の動詞」を見つける手がかりになるのではないかと思う。

○探究的な学習の推進

SSH、海洋科学科など、学校全体で探究的な学習に力を入れており、生徒たちは自らの興味を追求することで深い学びを得ていると感じます。グループでのディスカッションやプロジェクトを通じて、生徒たちは主体的に問題を発見し、解決策を考え抜く力を養っています。このような学びが生徒たちの思考力を大きく高め、将来に役立つ能力やリーダーシップを育てていると感じ大変良い取り組みだと思えます。

○生徒支援

引き続き、若狭高校の教育理念である「異質のものに対する理解と寛容の精神」を大切に、思いやりや助け合いの精神を育成して頂きたい。また、生徒会活動や部活動についても大変活発で、良い雰囲気作りが出来ている。

○健康管理・教育相談

健康管理・整理整頓とも充実度が高く、日頃の指導が成果として現れている。また、教育相談では、ほぼ全員の生徒が面談で話を聞いてもらえたと感じているが、複雑化した案件対応できるような、専門家との連携の強化等により、教育相談担当者への負荷の軽減についても配慮下さい。

(意見欄)

●評価の内容そのものについて

取り組みの仕方や成果等を評価する場合、一般的に肯定的な評価が80%を超えればその取り組みはおおむね順調に行われているといえる。学校評価に関していえば、選択肢の1と2を選んだ数値が80%を超えている場合となる。今年度の若狭高校学校評価書によれば、全38項目中33項目で80%を超えており、その多くが90%を上回っている。生徒、教職員、保護者がそれぞれの立場で前向きに歩みを進めていることが伺える。今後もその歩みを止めることなくさらに高い目標を掲げて取り組んでいただきたい。数年にわたって安定的に90%を超えているような取り組みの場合は、取り組みの内容自体をレベルアップさせることもそろそろ考えてもよいのではないかとと思われる。

●「教育課程・学習支援、探究的な学習」に関することについて

生徒アンケートの(5)「授業を通じて自分の考えを深めたり他の生徒に考えを伝えたりできたか」の結果が数年前には20～30%前後の生徒が否定的な回答だったのに対し、近年はそれが10%ほどに減少している。これは、職員アンケートの(2)「生徒の主体的な学びを促進する授業の実践に取り組んだか」と(10)「学校設定科目の課題研究において、通常授業にはない新たな探究的な学びの方法を取り入れた授業を実施しましたか」がおよそ90%の達成となっていることや、生徒アンケートの(10)「個人面接などで先生に話を聞いてもらうことができましたか」の項目が100%近い数値を記録していることに連動していると考えられ興味深い。昨今の主流である主体的で対話的な学習は、本校の「異質のものに対する理解と寛容の精神を養う」という教育目標にも通ずるものであり、すでにさまざまな場面での活躍が報じられている探究活動を中心として、より一層の充実を目指していただきたい。

●「学習支援」、「学年会」に関すること

達成状況が80%に届かない6項目のうち、特に数値が低く今後の大きな課題となりそうなものが、生徒アンケートの(1)(2)にある家庭学習時間に関するものである。おそらく学校が期待している「平日2時間以上の学習」を行っている生徒は、30%に届かない状況が長年続いている。また、約半数の生徒が1週間の中で学習しない日が4日以上ある、という状況も変わっていない。職員アンケートの(1)「計画的に家庭学習の課題を提供できたか」との項目では約85%の職員が「できた」と回答していることと一見矛盾するようにみえる。学校評価書の成果と課題には、「主体的に学びを深める生徒と、家庭学習に取り組みにくい生徒がともに増加した」と書かれている。学習に関して生徒の両極分解が進んでいるということになるようだ。これに対する改善策として、「個別面談」「学習ガイダンス」を充実させ、「学年会や各部署の連携」を図って包括的な指導を行う、とある。積年の課題ともいえる「生徒の主体的な家庭学習」の改善に向けて、今後の取り組みに期待したい。

(学校関係者評価を踏まえた今後について)

【生徒の家庭学習について】学年会とCSCが連携して学習時間の調査や学習課題について個別面談を通じて把握に努め、また「自分の動詞」探しを支援する中で、生徒が主体的に学習に取り組むことができるように支援する。教員で共通理解を図り丁寧な学習ガイダンスを実施するとともに、適切な量の家庭学習課題を出して家庭学習の習慣化を促す。一方で学習用アプリの導入したり、より発展的な学びを進めたい生徒、学習課題を抱える生徒への個別支援を充実させるなどして個別最適な学びを推進する。

【「自分の動詞」探しについて】担任等の丁寧な面談を継続するとともに適職診断ツールを利用したり、社会人の方のお話を伺う機会を充実させるなどして、生徒の興味関心を引き出す機会を多く設ける。

【教育相談関連について】担任と教育相談、生徒支援担当の情報共有を密にしチームで対応する。担任を支えとともに、より丁寧で効果的なサポートができるように努める。

【探究について】生徒がより深く主体的に探究に取り組むことができるように、地域の人々、専門家とつながり対話する機会が更に充実した体制作りに取り組む。結果として生徒の、また地域の皆さんのウェルビーイングが高まるように取り組む。

【評価項目の見直しについて】継続的に安定してよい結果を出している項目について、校内で項目の見直しを行う。